

2/20 は「アレルギーの日」

犬も、アレルギー性皮膚炎にご注意！ 皮膚病の原因、第2位

1	細菌感染症（膿皮症、爪周囲炎など）	38.4%
2	アレルギー性皮膚炎（アトピー性、食物性など）	36.4%
3	外部寄生虫感染症（ダニ※、ノミ、シラミなど）	16.1%
4	真菌感染症（マラセチア症、皮膚糸状菌症など）	9.1%

※ダニ：マダニ、毛包虫（アカラス）、ヒゼンダニ（疥癬）など

集計方法：2004年に加入していた犬のレコードを抽出。皮膚病の治療を受けた犬のうち、その原因が明らかとなっている8,837頭を対象に調査。

近年、犬のアレルギー性皮膚炎が増加しており、アトピー性皮膚炎は、そのなかでもとくに大きな割合を占めている。アトピー性皮膚炎は、遺伝的な要因に加え、若い子に発症しやすく、強い痒みによって、舐めたり、咬んだりしてさらに症状が悪化するケースが多く見られる。また、遺伝的な要因に加え、その原因を特定しにくいこともあり、完治は難しい疾患と言われている。

アレルギーの日の前後1週間は「アレルギー週間」。皮膚のトラブルを発症している子はもちろん、今は元気な子も、この機会にアレルギー検査をしてみても？ 事前にアレルギー一要因がわかれば、発症しても軽度で済むよう気をつけることも可能だ。